

一般社団法人日本人間工学会第1回理事会 議事録

1. 日時 平成21年9月7日(月) 17:30~20:00

2. 場所 日本大学理工学部駿河台キャンパス1号館2階 123会議室

3. 出席者

理事: 斉藤進(理事長), 青木和夫(副理事長), 大久保堯夫, 垣本由紀子, 加藤象二郎, 斎藤真, 酒井一博, 三林洋介, 外山みどり, 土屋和夫, 吉武良治

理事兼支部長: 横山真太郎(北海道), 北村正晴(東北)

欠席者: 阿久津正大, 岸田孝弥, 富田豊, 中野義彦, 八田一利, 平柳要, 福田康明, 堀江良典, 横森求(東海), 萩原啓(関西), 大塚彰(中国・四国), 長谷川徹也(九州)

監事: 間壁治子

オブザーバー: 横井孝志(ISO/TC159 国内対策委員長・人間工学研究がトライン検討委員長), 藤田祐志(人間工学技術戦略委員長), 榎原毅(ニューズ対応型人間工学展開委員長)

幹事: 大内啓子

事務局: 栗田紀子, 青木彩

4. 議事概要

理事13名が出席し、定款第37条により理事会が成立していることを確認した。理事長が定款第36条に従い議長となり、議事を進めた。なお、理事現在数は25名であり、理事会が成立する定足数は13名である。

【審議事項】

(1) 理事会議事録の署名人、公開手段、執筆者等について

議事録署名人、議事録公開、議事録執筆者について議長より以下3案について諮ったところ、全員異議なく了承され、承認された。

① 議事録署名人の決め方について

議長と出席監事、及び理事による議事録署名人として副理事長と総務理事2名から交替で1名が行う。

② 議事録の保管及び公開手段について

次回理事会で議事録承認後、議事録署名人が押印を行う。押印後の議事録は、10年間事務局で保管すると同時に、ホームページで公開し、学会員以外に対しても透明性を高める。

③ 議事録執筆者

議事録執筆者として大内啓子氏を指名し、今後、大内氏を総務幹事とする。

(2) 第1号議案 理事会運営規程について

理事会運営規程(案)について議長より説明し、全員異議なく了承され、承認された。

(3) 第2号議案 第143回理事会議事録(案)、第3号議案 平成21年度評議員会議事録(案)、第4号議案 平成21年度総会議事録(案)、第5号議案 支部長・部会長会議の開催報告について

上記、議案2~5について、議長から諮ったところ、全員異議なく了承され、承認された。

次回以降の理事会については、原則として理事会議題と議事録(案)を事務局から事前にメールで理事会メン

バーに配信することにする旨、議長より報告があった。

(4)第 6 号議案 科研費細目表に関する要望書について

科研費の分科・細目・キーワードと人間工学の現状について、議長より説明。人間工学は多分野に広がっているため、科研費の応募実績につき会員に対してアンケートを行い、文科省に来年 3 月に人間工学採択に向けた要望書を提出したい旨、議長から提案があった。本案件について諮ったところ、アンケート実施について全員異議無く了承され、承認された。

①アンケート実施時期及び方法について

ニーズ対応型人間工学展開委員長より、「人間工学ニーズアンケート調査」を近々ホームページ上で行う。アンケートのアナウンスは学会誌 45 巻 5 号で行い、回答はホームページで実施するため、科研費アンケートも同時に行ったらどうかとの提案が出された。議長から本提案について諮ったところ、全員異議無く了承され、承認された。

②アンケート項目について

アンケート項目については、理事より「もう一步踏み込んで、人間工学が分科・細目に設定されたら、応募しますか・しませんか」と聞いたかどうかとの提案が出された。そのため、具体的な文言を再度作成することとなった。以上、本議案についての承認事項は 3 点である。

- 1)学会誌 10 月発行号でアンケートの案内を出し、ホームページ上でアンケート調査を行う。
- 2)具体的な方法はニーズ対応委員会と事務局会議で調整する。
- 3)アンケート内容は、理事の意見を踏まえて、改めて文言を作成する。

(5)第 7 号議案 ロートマップについて

本件は、総会での「ロートマップについて、技術戦略委員会とは別の活動も必要なのではないか」という意見に対し、判断を理事会マターとして今回の議案として取り上げるものであるとの旨、議長から説明があった。

人間工学技術戦略委員長より、委員会の活動計画と活動状況について、編集委員会や表彰委員会など多くの委員会・理事とコミットしており、JES 活動に展開している旨報告。技術戦略委員会は新たな活動を加えてこのような展開を始めているため、このまま今年度の事業を推進することで全員異議無く了承され、承認された。なお、理事から、子どもの人間工学分科会が取り上げられているが、子ども分科会以外に話題になっている分科会は他にあるかとの質問があり、委員長から今年度はこれに注力したいと回答があった。

(6)第 8 号議案 EST(台湾人間工学会)によるユニバーサルデザイン実践ガイドラインの中国語版出版

台湾人間工学会の林久翔会長より、日本人間工学会編『ユニバーサルデザイン実践ガイドライン』を EST で中国語に翻訳し、出版したいとの申し入れがあった旨、議長から報告があった。本件について諮ったところ、繁体字と簡体字については議論もあったが、台湾においての翻訳出版並びに、無償で提供することが了承された。

(7)第 9 号議案 EST による JES/GPDB の翻訳及び更なる連携について

台湾人間工学会の林久翔会長より『グッドプラクティスの翻訳と更なる連携』について申し入れがあった旨報告があった。理事会前に、この申し入れについて広報委員長とニーズ対応型人間工学展開委員長に相談したところ、歓迎するという返事もらっている。本件について、理事会として了解してよいかを議長から諮ったところ、全員異議無く了承され、承認された。

なお、台湾への返事については、議長から理事会で承認された旨を EST 学会長に連絡する。

(8)第 10 号議案 JES_ESK2010 年度シンポジウム開催地について

JES_ESK2010 年度の日韓シンポジウムの開催地については、予定通り韓国で開催されることとなった。

(9)第 11 号議案 平成 21 年度日本人間工学会優秀研究発表奨励賞の選考結果について

優秀研究発表奨励賞の審査過程ならびに選考結果について総務理事より報告。本件について議長より諮ったところ全員異議なく了承され、承認された。なお、審査員が欠席した場合の第二次審査対応策について、今後表彰委員会内で検討するとの報告がなされた。

(10)第 12 号議案 協賛等の依頼

11 件の協賛等の依頼について議長より諮ったところ全員異議無く了承され、承認された。

【報告事項】

(1)会勢報告

会員数は 2009 年 8 月末現在 1910(+23)人、賛助会員数 39 社 40 口(-1 社-1 口)

(2)学会定款について

HP で学会定款を公開しているの周知の程宜しくお願ひしたい旨、報告があった。

(3)理事会および理事・監事に関する法律

理事会の権限、監事の権限、理事会への出席義務など、一般社団法人日本人間工学会定款と一般社団法人に関する法律についての説明が議長より行われた。

(4)諸規程類の整備

法人化に伴い、平成 22 年 3 月を目途に諸規程類を整備したため、担当を副理事長とした。

副理事長から、新たに作成しなければならない規程類の説明があった。支部規程については、雛形が必要であれば作成するので、申し出て欲しい旨報告がなされた。

また、諸規程類は遅くとも平成 22 年 3 月までに制定することが必要であるが、研究部会や委員会設置規程等は急いで作成しなければ、新たな部会等が発足できないため、次回 11 月の理事会までに副理事長担当で案を作成し、理事会に諮りたいとの意見が議長から示された。

(5) JST 電子アーカイブ事業への応募

(独)科技振興機構(JST)電子アーカイブ事業に学会誌を応募した結果、採択された。学会誌創刊号から 44 巻 6 号までが大会論文集を含めて学会の費用負担がなく電子化され、JST から Journal@rchive として公開されることになるとの報告が議長よりなされた。学会誌は現在、メディカルオンラインでデータ化をしているが、今後は J-STAGE にも契約をするよう検討してもらいたい旨、議長から要望が出された。

なお、総務理事から大会論文集については 45 回大会からレジュメを J-STAGE に掲載しているはずであるとの確認意見が出されたが、J-STAGE に全てが掲載されているわけではないことが議長及び編集委員長より示された。さらに、大会論文集については、大会当番校が担当しているため、編集委員会では J-STAGE 掲載につ

いては把握していないとの報告があった。本件について、大会論文集も学会誌の特別号(学会誌の一部)であるため、今後は編集委員会が全てを把握し、編集委員会マターで行ってもらいたい旨、議長より意見が出され、承認された。なお、今後発行される書誌情報については、学会誌を印刷している会社から、情報をすべてもらえるように手配済みである旨、編集委員長より報告がなされた。

(6)米国人間工学会(HFES)会長の来日

米国人間工学会長の Paul Allan Green 氏の来日に際し、JES と HFES との交流会を 8 月 20 日に行った旨、議長より報告された。

(7)財務報告 源泉税について

源泉税納付のシステムについて財務担当理事より説明があり、該当する支部、部会、委員会等に対して協力をお願いをした。なお、大会についても源泉税納入の対象であり、大会長には具体的な内容を追って連絡する。

(8)大学における人間工学科の新規設置事例

日本で初めて人間工学科が近畿大学生物理工学部開設される旨、学科概要等の資料に基づき、議長から報告された。

(9)第 50 回記念大会報告

600 名近くの参加者があった。セッションや発表は、学会主催シンポジウム 1 件、特別講演 2 件、写真展示などを含めて一般演題 180 件、人間工学活用事例展示が 8 件、一般シンポジウムが 8 件、オーガナイズトセッションが 6 件。なお、収支決算終了後に、詳しい活動報告を学会のホームページに掲載する。

(10)第51回大会準備状況報告

2010 年 6 月 19 日・20 日に北大で開催し、ホームページその他の準備が整っている。本大会ではハイブリッド方式を実現させたいと考えているため、次回理事会までに素案を提出させていただき、アドバイスをいただいた後で、演題募集をしたい旨、報告がなされた。

(11)編集委員会

編集委員会の開催状況、発行状況、査読進捗状況、採択率について、編集委員長より報告がなされた。また、JST 電子アーカイブに際して、過去の巻号で保存状態が悪いものについては、ご提供願うこともありうるとの依頼があった。

(12)国際協力委員会

2009IEA 北京における報告が行われた。次回 IEA 大会は 2012 年 2 月ブラジル、次々回は 2015 年 8 月メルボルンで開催する予定。IEA 北京報告は、10 月号学会誌に掲載する。

(13) ISO/TC159 国内対策委員会

8 月 17 日・18 日に北京・中国標準科学研究所で TC159 総会が行われた。また、IEA において TC159 の活

動が積極的に紹介された。アクセシブルデザインの考え方が、障害者や高齢者だけではなく、子どもや女性、体格などをも含めてという認識が高まってきた。なお、IEA2009 開催中に、TC159/AGAD,TC159/SC4 総会,TC159/SC3 総会が開催された。今後、TC159/CAG 会議を 2009 年中に開催する予定である。

(14)表彰委員会

委員会報告が行われた。平成 21 年度日本人間工学会優秀研究発表奨励賞の決定について、10 月発刊の学会誌に掲載予定。

(15)学術会議

実行委員長である副理事長より報告。安全工学シンポジウム 2009 を 7 月 9 日、10 日に開催。参加者は約 380 名。今年は学術会議の会場が使えず、会場を機械振興会館としたため、会計上は赤字となった。会計報告等は 9 月 25 日に行う最終実行委員会において経理が承認された後に、学会に報告する。

なお、議長より、安全工学シンポジウム開催を契機に、安全人間工学を学会の一つの柱として立ち上げて欲しいと副理事長に要望した旨、報告された。

(16)人間工学専門家認定機構

準専門家資格 5 名、専門家資格 B 方式 3 名。9 月 11 日に日大理工学部で A 方式の試験を実施。受験数は 6 名。会報は 20 号まで刊行。HP 上に掲載。また、試験ガイドブックを 6 月 10 日に発行し、現在 HP から無料でダウンロード可能とした。

また、2009IEA 北京で、専門家によるオーガナイズセッションを実施した旨報告。日本と BCPE、CREE などがパネラーで、構成・ニーズ・歴史・人数などを紹介した。セッション資料は、HP に掲載可能であれば、部会のページに掲載する。なお、相互認証について、「IEA ホームページでは BCPE、CREE、JES がインターナショナルであるとなっているが、オーストラリアはローカル認証なのかを尋ねたところ、全てインターナショナルだという返答が IEA 側からあった」との報告が人間工学専門家認定機構長からなされた。

(17)人間工学技術戦略委員会

委員会構成メンバーは確定。2009IEA 北京において、人間工学技術戦略ロードマップに関わる学会の活動状況（子どもの人間工学分科会設立、初回ローリング実施等）の報告を行った。委員会としては、ロードマップの性格付けに、なお検討を要すること、関連して理事会がダイナミックにロードマップを活用する必要があると認識している。今後の活動方針として、学会活動とのリンクを強化すること。IEA として独自ロードマップ作成等の活動を行う可能性について、IEA 側になげかけている。9 月末を目途に活動方針案を委員に提示し、年末を目途に意見集約を行う予定であるとの報告がなされた。

また、子どもの人間工学分科会は、分科会長に早稲田大学・小松原明哲氏が就任。多くの企業から参加を表明している旨、報告がなされた。

(18)ニーズ対応型人間工学展開委員会

ニーズ対応型委員会の使命、メンバー構成、WG による取組み概要について報告。他の委員会との連携・協力について要請した。

(19)人間工学研究ガイドライン検討委員会

ガイドラインについて現在最終コメントをお願いしている。10月の段階で、修正したガイドラインを理事会に提出する予定である旨、横井委員長から報告がなされた。なお、理事会承認後のスケジュールについては、ドラフト版としてホームページ上に公開し、パブリックコメントを求めることでよいかを諮ったところ、全員異議なく了承され、承認された。最終的には、確定バージョンを今年度の成果とする。学会誌には完成した旨のアナウンスに留め、最終版もホームページに掲載することにする。

(20)第2期選挙管理委員会

第2期代議員及び役員選挙日程案が示された。10月から開始し、3月に決定するスケジュール。選挙管理委員について紹介を行った。なお、当選者への就任承諾書には、総会出席が要件であることを記載して欲しい旨、議長より意見が出され、本案について諮ったところ全員異議なく了承し、承認された。

(21)支部報告

北海道支部

7月24日に支部役員会を開催。平成21年11月14(土)に北海道大学において北海道支部大会開催する。北海道支部は6名もの会員増の報告が北海道支部長からあった。

東北支部

支部役員会を開催し、いくつかの企画を検討している旨、東北支部長より報告があった。

(22)その他

確認事項として、代議員及び役員選挙について、第18期とするのか、第1期とするのかの確認が理事から提出された。第50回大会における総会で第1期代議員及び役員が承認されており、次期は第2期になることが議長により示された。

5. 閉会

以上の議事を終え、20時00分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、議長、議事録署名人がこれに記名押印する。

平成21年9月7日

議 長 齊 藤 進 ㊟

議事録署名人 青 木 和 夫 ㊟

議事録署名人 間 壁 治 子 ㊟